

(2) 大学院研究科における学生の受入れ

(学生募集方法、入学者選抜方法)

○ 大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性 (A 群) 大学院

本学大学院では、学部入試とは別に、入学センターが学生募集を行い、入学センターと各研究科が連携しながら大学院研究科の入学者選抜を行っている。入学者選抜方法は7月に特別推薦入試、9月(第1次募集)と2月(第2次募集)に博士課程(前期)と修士課程の一般入試・社会人入試、2月に博士課程(後期)の一般入試、博士課程(前期)と修士課程および博士課程(後期)の社会人入試・外国人留学生入試をそれぞれ実施している。

入試科目については、各研究科・専攻の特色にあわせて、専門分野の試験、英語、小論文、口術試験、面接などを実施している。

学生募集の方法としては、学部の出身大学にとらわれず、広く有為な人材を選抜すべく、多様な入試を行っており問題ないと考えているが、入試科目については各研究科・専攻と連携しながら、入学者の成績レベルを確認し、内容を検討する必要がある。また社会人入試は従来2月のみの実施であったが、合格者発表日から入学までの期間が短く、勤務先に対する影響が大きいと考えられるため、2006年度選抜より2月に加え9月にも実施することに変更した。このことにより、9月(第一次)に3名の出願があった。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程(前期)】

大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

学生募集は、学内、学外、社会人から幅広く行っている。入学者選抜試験は、博士課程(前期)については特別推薦入試(7月)・第1次募集(9月)・第2次募集(2月)の三度、博士課程(後期)については2月に一度の一般入試を行っている。博士課程(前期)の第1次募集・第2次募集の選考方法は、英語・論文・面接であり、入学試験問題の総得点(300点)に基づき選抜される。選抜方法は、質の高い入試問題を考慮して作成しているので適切であると言える。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程(後期)】

大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

博士課程(後期)の選考方法は、研究計画書および修士論文に基づく内容の試問(面接)を行っている。

入学者のほとんどが本学の卒業生また修了生であることもあり、現在のところこの形で特に問題はないものと考えている。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）】

大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

学生募集は、入学センターが担当して広報活動を行っている。入学者選抜試験は、特別推薦入試（7月）・第1次募集（9月）・第2次募集（2月）の三度であり、第1次募集および第2次募集の試験方法は英語・論文・面接である。このうちの論文と面接によって、入学後自ら進めようとする研究分野に関する知識をうかがうことができる。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）】

大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

博士課程（前期）と同様に、学生募集は入学センターが担当して広報活動を行っている。募集時期は2月のみで、選考方法は、研究計画書および修士論文に基づく、研究内容に対する試問（面接）だけであるが、博士課程（後期）の学生としての資格と能力の有無を十分な時間をかけて判断している。

面接者による判断は、専攻の博士後期課程委員会および研究科の博士後期課程委員会で諮られ公正な審査を行っている。合格率は低い。入学定員は4名、収容定員は12名であるが、2006年度現在在籍学生数は8名である〔大学基礎データ表18〕。

【国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程】

大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

学力試験を課さない特別推薦制度および年間2回の入学者選抜を行っており、学生の大学院への入学機会としては適切である。他方では、学外からの受験生、社会人や海外留学生が増加傾向にあることから認知度も向上しており、当研究科の個性のアピールを積極的に行っていく必要がある。

【生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程】

大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

生活科学研究科（食物栄養科学専攻・修士課程のみ）の一般入学試験は、他研究科と同じく、第1次募集を9月、第2次募集を2月に実施しており、募集人員は8名である。試験科目は英語（100点）、専門科目は「栄養学」「食品学」「調理学」の3科目から2科目を選択（各100点で200点）し、合計300点満点である。さらに、受験生の希望している研究分野や勉学意欲などを調べるために面接を実施している。

食物栄養科学専攻では従来、「食品学」「栄養学」「調理学」の3分野を配置した実験研究中心の教育研究を行って来た。しかし、これらの分野は農学系大学院の研究分野と重なる部分がある。また最近では、ほとんどの主要な国公立大学が大学院重点化を行ったのに伴い、入学定員を増大させ、以前よりも入学しやすい傾向が見られる。

さらに、私学と比べて学費が安く、研究設備が充実していて、しかも直接指導が受けられるスタッフの数が多い国公立の生活科学系、農学系大学院へほぼ毎年進学し、本学の研

究科へ進学する者が減少している状況である。

そこで、このような教育環境の変化を鑑みるとともに 2001 年に行われた栄養士法の改正を受けて、生活科学研究科では 2001 年度から食物栄養科学専攻を、従来からの教育研究内容を引き継ぐ「食物栄養科学コース」と、管理栄養士免許を有するもの（新卒の管理栄養士免許取得予定者を含む）を対象とした「臨床栄養学コース」の 2 コースで教育研究を行うこととした。「臨床栄養学コース」を希望する者は、上記専門科目のうち必ず栄養学を含めて 2 科目選択することになっている。社会人入学と併せて 2002 年度、2003 年度、2005 年度に「臨床栄養学コース」への進学者がいた。[大学基礎データ表 15]

（学内推薦制度）

- 成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性（B 群）大学院

本学では、学部教育と大学院教育の一貫性を持つことで本学の特色を維持し、なおかつ大学院進学を希望する学生が大学院入試のための受験勉強に時間をとられずに、研究に十分な時間を当てることができるよう本学学部における成績・人物優秀者に対して特別推薦入試制度を設けている。

出願資格は、学部第三年次までに履修した科目の総合平均点の条件を設定しているが、第三年次編入学生の志望者も増えていることから、成績の条件等も含め推薦基準の見直しについて、今後も検討する必要がある。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）】

成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

この推薦制度は 1990 年からの実施されたものであるが、総合平均科目平均点（1～3 年次までの成績）80 点以上の者に特別推薦入試の応募資格を与えている。当時の英語英文学科のカリキュラムの濃度や高い英語能力が要請されることを鑑みれば 80 点はやや高い設定であったが、近年では、学部主席卒業生の得点平均点が 90 点を越える状況が続いていることを考えていくと、それほど高い得点とはいえない。

試験は、論文と面接によって行われ、合否が決定されるが、学部での受験生の成績の実績を考えれば、これで不都合はないと考える。ただし、学部では卒業論文の執筆は義務付けられておらず、博士課程（前期）に入学後、論文の作成に困難を覚えているようである。この点に関して、今後、教育の実際に即して検討がなされなければならないだろう。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）】

成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

学内推薦制度は設けていない。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）】

成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

出願資格は、学部第3年次までに履修した科目の平均が80点以上の者であることだけであり、その者に対して、面接において研究への意欲があると認められた場合に合格としている。

この試験によって入学した院生は授業態度についての問題は認められないが、近年相対的に学力が低下しているようであり、平均80点以上という条件を再検討しなければならない必要が感じられる。

また、面接において、研究に対する意欲と覚悟を一層厳しく確かめる必要がある。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）】

成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

特に制度として確立したものはないが、博士課程（前期）修了者であり、優秀な修士論文を提出した者で、入学を希望する者について、博士課程（前期）に準じて、選抜を行っている。

実績の少ない現時点においては、この選抜方法の適否は容易に判断がつかないが、現時点では特に問題はない。

【国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程】

成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

学部での成績が平均 80 点以上の学生を対象に学内推薦制度を実施している。応募者がいない年もあるが、少しずつこの制度の認識が浸透しつつある。

同志社大学大学院への特別推薦制度も実施しており、両者の選別と差別化に一層の工夫が必要となっている。

【生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程】

成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

生活科学研究科（食物栄養科学専攻・修士課程のみ）では、特別推薦入学試験制度があ

り、募集人員は若干名である。

出願資格は、新卒予定者で第3年次までに履修した科目の総合平均点が81点以上（小数2位四捨五入）の者（ただし、教職に関する科目および自由選択科目を除く）である。

選考方法は、書類選考と面接による。若干名ではあるが、ほぼ毎年、本研究科での勉学、研究を希望する意欲の高い学生が入学している。

なお、「臨床栄養学コース」を希望する者は管理栄養士専攻を卒業見込みの者に限り、当該コースに進学した者は、1年間、先進医療を実施している病院でインターンシップを行うことになる。

（門戸開放）

○他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況（A群）大学院

本学では、大学院の入学試験要項（願書含む）を本学設置の研究科・専攻の分野関係の学部を有する他大学に送付する一方、進学雑誌掲載、大学院進学インターネットサイト参加、大学院進学志望者対象進学説明会の参加等、入学者選抜において広く募集をしている。本学の大学院研究科における他大学・他大学院学生の志願者数・合格者数は以下のとおり毎年一定数あり、門戸開放は十分に行われていると考えている。

年度	区分		文学研究科 英語英文学 専攻博士課程（前期）	文学研究科 日本語日本 文化専攻博士課程（前期）	国際社会システム研究科国際社会システム専攻修士課程	生活科学研究科食物栄養科学専攻修士課程	文学研究科 英語英文学 専攻博士課程（後期）	文学研究科 日本語日本 文化専攻博士課程（後期）
2002年度	志願者	内部より	9	11	—	7	1	1
		外部より	4	15	—	2	—	—
		合計	13	26	—	9	1	1
	入学者	内部より	5	8	—	4	1	1
		外部より	2	8	—	1	—	—
		合計	7	16	—	5	1	1
2003年度	志願者	内部より	9	11	—	7	—	2
		外部より	2	21	—	2	—	2
		合計	11	32	—	9	—	4
	入学者	内部より	5	9	—	6	—	1
		外部より	—	10	—	—	—	2
		合計	5	19	—	6	—	3

年度	区分		文学研究科 英語英文学 専攻博士課 程（前期）	文学研究科 日本語日本 文化専攻博 士課程（前 期）	国際社会シ ステム研究科国 際社会システム 専攻修士課 程	生活科学研 究科食物栄 養科学専攻 修士課程	文学研究科 英語英文学 専攻博士課 程（後期）	文学研究科 日本語日本 文化専攻博 士課程（後 期）
2004 年度	志 願 者	内部より	1 0	7	5	—	3	2
		外部より	1	6	—	1	—	2
		合計	1 1	1 3	5	1	3	4
	入 学 者	内部より	6	6	5	—	3	1
		外部より	—	2	—	—	—	1
		合計	6	8	5	—	3	2
2005 年度	志 願 者	内部より	5	1 4	2	5	1	2
		外部より	1	5	2	2	1	1
		合計	6	1 9	4	7	2	3
	入 学 者	内部より	4	1 0	2	3	1	2
		外部より	—	3	1	—	1	1
		合計	4	1 3	3	3	2	3
2006 年度	志 願 者	内部より	6	1 2	1	4	1	1
		外部より	1	9	3	4	—	—
		合計	7	2 1	4	8	1	1
	入 学 者	内部より	5	5	1	2	1	1
		外部より	—	7	3	—	—	—
		合計	5	1 2	4	2	1	1

なお、生活科学研究科食物栄養科学専攻における臨床栄養学コースの社会人入学試験では、このコースが日本で先駆けたものであることなどから、本学卒業生のみならず、キャリアアップを目指す他大学を卒業した現役管理栄養士が、希望し入学してきている。従って、他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況は、両コースとも門戸開放を行っているが、特に、コースの性格上「臨床栄養学コース」にて、大いに機能しているものとする。

（飛び入学）

○「飛び入学」を実施している大学院研究科における、そうした制度の運用の適切性（B群）
大学院

「飛び入学」制度を設けているが、出願がない状況である。

（社会人の受け入れ）

○ 社会人学生の受け入れ状況（B群）大学院

本学では、各研究科の選抜試験において社会人入試を実施している。出願資格は、文学研究科と国際社会システム研究科が、4年制大学を卒業後3年以上の社会経験を有する者であり（英語英文学専攻はTOEFLのレベルもあわせて設定している）、2001年度入学者選抜より募集を開始した生活科学研究科食物栄養科学専攻臨床栄養学コースが、4年制大学を卒業後、現在病院等において管理栄養士または栄養士として勤務している者、もしくは4年制大学を卒業後、管理栄養士または栄養士の資格を生かして1年以上の勤務または社会活動の経験がある者としている。

[添付資料(1)]のとおり、募集人員も若干名であり、志願者数・合格者数は多くないが、3研究科共に高度職業人教育を目的としており、当該選抜の目的を果たしていると考えている。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）】
社会人学生の受け入れ状況 2005年度より制度を設けたが、現在、該当する学生はいない。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）】
社会人学生の受け入れ状況 社会人入学制度はない。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）】
社会人学生の受け入れ状況 受け入れ制度は設けられているが、現在は在籍者はいない。 これまで高校教員が専修免許取得のために休暇を取って入学したケースがあり、今後もそうした目的を持つ志願者が予想される。
その他 入学者あるいは履修者が少ない原因の一つに本学が郊外にあることが考えられる。仕事を持つ者にとって通学にまる一日を費やすということができにくいからである。2009年度の市内への校地移転を見据えながら、夜の時間帯での授業の可能性も考えていく必要がある。 また、本学のリベラル・アーツ教育の精神を理解してもらうための何らかの機会を設定する必要も生じてくるものと思われる。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）】
社会人学生の受け入れ状況 博士課程（前期）と同じく、受け入れ制度は設けられており、現在、2 人が在籍している。
その他 博士課程（前期）の場合と同様に 2009 年度の市内(今出川キャンパス)移転により、潜在的志願者は増えると考えられ、それに応えるための条件を整える必要があると考えている。

【国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程】
社会人学生の受け入れ状況 社会人受け入れに門戸は開いており、2006 年度に初めて 1 名が入学した。国際社会システム研究科という実社会の動向に根ざした研究科の性格や個性を更に社会的にアピールしていく必要がある。

【生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程】
社会人学生の受け入れ状況 「臨床栄養学コース」は、「臨床現場における管理栄養士・栄養士として有能な人材を養成する高度職業人教育を目的」としている。したがって、このため特に臨床現場の経験がある社会人を特別の選抜によって受け入れ、病態栄養学など専門知識が臨床現場に還元されることを期している。 そこで、4 年制大学を卒業後、現在病院等において管理栄養士または栄養士として勤務している者、4 年制大学を卒業後、管理栄養士または栄養士の資格を活かして 1 年以上の勤務または社会活動の経験がある者を出願資格とし、小論文および面接のみで選考している。この選考方法により、今までのところ、修士学位取得に関し、特に難のある者を認めず、社会人入学選考方法としては、適切なものとする。実際、2002 及び 2003 年度には、それぞれ 4 及び 1 名の社会人が入学し、無事修了している。
その他 臨床栄養学コースで入学後も勤務を続ける者については、出願時に研究計画書とその研究を勤務先で行うことについての勤務先所属長の承諾書の添付を求め、勤務先における研究の遂行性も選考の判断にいており、年限内に修士学位取得の可能性のあることを確かめる事ができる適切な入学選考法である。

（科目等履修生、研究生等）

○科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性（C群）大学院

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）】

科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

科目等履修生、聴講生等、研究生については、これまで積極的に受け入れており、今後その方針を維持するつもりである。

受け入れ要件は、学部卒業以上の学力をもった女性ということだけであり、申し出があり、該当科目が開講されていれば、面接を行って受け入れている。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）】

科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

科目等履修生、聴講生等、研究生についての受け入れの実績はないが、博士課程（前期）以上の学力をもった女性で、届け出があり、なおかつ該当科目が開講されていれば、受け入れる方針である。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）】

科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

科目等履修生、研究生、聴講生は積極的に受け入れているが、教員専修免許取得のために履修を希望する学生が増加する傾向にある。

受け入れの基本要件は、募集要項で明確にされているように、4年制大学を卒業していることだけである。この要件は授業を適切に行うためには最低限必要なことであり、適切な措置であると考えます。

その他

2009年度からの市内(今出川キャンパス)への移転に伴い、社会人を含めてそれぞれの志願者が増えることが予想される。

その状況を確認した上で、今後、受け入れ条件の見直しなどが必要となれば、検討したい。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）】

科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

博士課程（前期）と同じく、科目等履修生、研究生、聴講生は積極的に受け入れている。

募集要項で明確にされているように、大学院修士課程を卒業していることが基本的要件であるが、自分の研究テーマを明確に持っている者であることを要望している。

その他

博士課程（前期）の場合と同様に、2009年度からの今出川移転に伴い、それぞれの志願者が増えることが予想される。

その場合、受け入れ条件などの見直しが必要となるものと思われる。

【国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程】

科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

前述した社会人の大学院進学に際しては、その前年に大学院研究生として大学院の授業を受講している。科目等履修生などの制度は、その後の大学院進学を必ずしも前提とはしていないが、大学院科目の開放を通じて大学院の社会的役割の向上に努めたい。

【生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程】

科目等履修生、研究生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

生活科学研究科における授業科目の科目等履修および聴講は、大学院の社会的使命の一つとして、社会人等に対し、パートタイムによる学習機会を拡充し、その学習の成果に適切な評価を与えることを目的として、設けられている。

「科目等履修生」は、履修を許可された科目の最終試験に合格すると、正式な単位が、授与されることもあり、「臨床栄養学コース」で学ぼうとする社会人が、予め「科目等履修生」となり、将来正規の学生となったときの負担を減らす目的で、希望する者が多い。現在6名の科目等履修生が「臨床栄養学コース」にて学んでいる。

「聴講生」は、履修を許可された科目の最終試験に合格しても履修証明書が発行されるのみで、単位は授与されないが、3名が「臨床栄養学コース」にて登録している。

一方、生活科学研究科にて研究に従事しようとするもの（修士またはこれと同等以上の学力があると認められるものが条件）に対して研究生の制度を設けている。研究期間は、6ヵ月ないし1年間で希望した場合継続が可能である。また、毎年2名を限度に本研究科にて特別研究生に指名している。指名されると研究費として年30万円の研究費が授与される。現在2名の研究生が登録しているが、特別研究生は0名となっている。

以上のことから、生活科学研究科では、総じて科目等履修生、研究生、聴講生の制度は、機能しているものとする。

（外国人留学生の受け入れ）

○外国人留学生の受け入れ状況（C群）大学院

本学では、各研究科の選抜試験において外国人留学生入試を実施している。日本の大学および大学院に進学している外国人留学生の受け入れを積極的に行うように努めている。

国際化の進展に対応した人材育成に積極的に貢献し、わが国に留学生を送り出している

諸外国の人材育成の期待に応えることは意義あることである。

社会人入試と同様に 3 研究科共に募集人員も若干名であり、志願者数・合格者数は多くないが、当該選抜の目的を果たしていると考えている。

なお、今後は授業料の大幅な減免措置や優先的な入寮措置等、より多くの外国人留学生を受け入れるための体制づくりについて、国際交流センターとともに検討を行い、さらに積極的な受け入れを目指す必要があると考えている。

（定員管理）

○ 収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性（A 群）大学院

本学大学院研究科の学生定員および在籍学生数は、2006 年 5 月 1 日現在〔大学基礎データ表 18〕に示すとおりである。

収容定員と在籍学生数の比率については、それぞれの研究科の種類・性格、教員組織、施設・設備等の諸条件を基に適正な学生数を受け入れ教育目標に即した教育・研究指導を行い、教育研究上の効果を十分に高める必要性と大学経営の視点とのバランスが非常に重要である。

2006 年 5 月 1 日現在の収容定員と在籍学生数の比率は、修士課程 0.78、博士課程 0.63 であり、今後も適切な定員管理が維持できるよう取り組む必要がある。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）】
収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性 文学研究科英語英文学専攻博士課程（前期）の収容定員は 16 名であり、実際には 18 名の在籍者であるため、収容定員に対する比率は 1.13 倍となっている。 学生確保のための措置は、学内推薦制度を設ける他に、年 2 回大学院入学試験を行っている。また、奨学金もかなり充実させているので、適切な措置がなされている。 今後は、他大学からの学生または社会人の学生確保も課題のひとつである。

【文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）】
収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性 文学研究科英語英文学専攻博士課程（後期）の収容定員は 12 名であり、実際には 7 名の在籍者であるため、収容定員に対する比率は 0.58 倍となっている。 その状態を改善するための措置は、現在特に考えられていないが、入学試験の回数、学費の値下げなどを含めて今後考えていく必要がある。また、2009 年度から文学研究科は京都市内に移転する予定であり、このことによっても状況の変化が予想される。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）】

収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

入学定員は 10 人であるが、2005 年度の入学者は 13 人、2006 年度は 12 人で、設立以来、ほぼ充足している。

ただ過去においては、特定分野の入学者が多く、教員の負担過剰になったこともあるので、現在は教員の指導可能人数を 3 人とし、できるだけ特定分野に入学者が偏らないように注意している。ただし、三度の入試を行っており、コース性を設けても各々の定員設定ができないので、こうしたバランスを取ることは難しいが、今後、より良い方策を考える必要がある。

また、どの分野からも入学者を安定的に確保するための方策として、授業料の値下げなどを含めて、考えていく必要もあろう。

【文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）】

収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

入学定員は 4 名。2005 年度の入学者は 3 名、2006 年度は 1 名である。例年 1～3 名で推移しており、定員は充足していないが、各分野（日本語学・日本文学・日本文化史学・芸術文化学）に対応する教員が 1～2 名のため、結果的に現在は適正な人数になっている。

今後、学生確保のために何らかの方策を考えていかなければならない。

【国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程】

収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

収容定員は、1 学年 10 名あわせて 20 名となっているが、在籍学生数は、修士 1 年が 5 名、修士 2 年が 3 名である。

学生確保のためには、他大学大学院との差別化をはかり、国際社会システム研究科の研究分野の個性を大きくアピールすることが大切である。

【生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程】

収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

生活科学研究科の入学定員は、「食物栄養科学コース」および「臨床栄養学コース」を併せて 8 名であり、収容定員は 2 学年で合計 16 名となる。現在、在籍学生数は、[大学基礎データ表 18]に示すように 2 学年併せて 4 名（「食物栄養科学コース」2 名、「臨床栄養学コース」2 名）で、充足率は 25%である。

この原因は、以下のように考えられる。

本研究科より学費が低く抑えられている旧国立系および公立大学院の収容定員が、1990 年代に大幅に増加したこと

本研究科は、講座制をとらず学科目制をとっている同志社女子大学生生活科学部の体制

に基礎をおいているため、各研究室に指導ができる教員は専任の大学院任用教授のみに限られること

機器設備が、旧国立系および公立大学院に比べて貧弱であること
などがあげられる。

これらの要因が、大学院進学希望者を生活科学系並びに農学系の旧国立系および公立大学院に押しやることとなり、充足率の低下を招いていると言えよう。

2001 年度に立ち上げた「臨床栄養学コース」は、「臨床現場における管理栄養士・栄養士として有能な人材を養成する高度職業人教育を目的」としているため、特に臨床現場の経験がある社会人を特別の選抜によって受け入れていきた。しかしながら、当初、入学定員の充足率を満たす学生を確保したものの、本研究科所在地に近い職場でないと通学できないことから、問い合わせは多いものの、通学可能で、キャリアアップを求める社会人は、おおむね入学してきたものと考えられ、一昨年度は、入学者が初めて 0 名を記録した。

しかし、このコースに対する働く管理栄養士の関心は高く、関東地域などの遠方からも問い合わせが舞い込んできている。今後、このような向上心の高い社会人を入学させるため土日開講により講義が提供できないか検討中である。この点をクリアできれば、十二分に収容定員を充足できるものと考えている。